

サーフライダー・プロフィール

あまかた・えばん◎神奈川県横浜市出身。上智大学比較文学部からコロラド州の大学に編入し、現地ではスノーボード競技にも参加。IBM入社後、長野オリンピックやシドニー・オリンピックなどでIT技術に関わり、シドニー在住中現地でサーフィン始める。日本とハワイで不動産免許を所持するリアルターだが、現在も技術者として、オリンピックのITプロジェクトに参加する。



お気に入りサーフポイント

ダイヤモンドヘッド、サンディービーチ

波はかなり違います、両方とも住む場所から近くあまり混んでいないので、よく通っています



天方エバン

サチハワイ総合不動産会社
リアルター・アソシエイト

ハワイの象徴サーフィン。
サーフィンを生活の一部
として活動している
ビジネスパーソンを
紹介していきます。



サーフィンは精神的リセットの貴重な機会
ハワイに住めることを感謝させてくれます

横浜市で生まれ育ちましたが、サーフィンを始めたのはオーストラリアです。29歳のころに始めた遅咲き派で、まだまだ修行中です。

高校3年生の頃、ニューメキシコ州の高校に交換留学。帰国後は上智大学比較文学科に入学しましたが、アメリカの大学に行きたくて、スノーボードができるコロラド州の大学に3年次から編入。卒業後はIBMに入社し、IT技術者として長野を皮切りに世界中のオリンピックに派遣されました。

シドニー・オリンピックのプロジェクトのために現地に居住したとき、同市のマンリー・ビーチでサーフィンを始めました。スノーボードで「滑る」とことバランス感覚は習得していたものの、サーフィンはチャレンジ感も大きく、それから週2〜3回ビーチに通うようになりました。

ハワイは「観光客の来る土地」という先入観があったんですが、弟がハワイ大学に通っていたときにサーフィンをしに訪れ、そのアロハな雰囲気魅了されました。

その後結婚し、アメリカで子どもを育てたくて、次男が生まれた後にハワイ移住を決断。準備期間を経て、2012年に移住しました。

ハワイの波は、リーフで綺麗に割れ、水が温かく、年中ウェットスーツいらすなのも大きな魅力ですね。偶然にも、コロラド時代のスノーボード仲間がハワイに住んでいるので、一緒にサーフィンを楽しんでいます。

私にとつてのサーフィンは、精神的リセットの機会。また、波は1本1本違い、必ずしも自分の思ったとおりに乗れるわけではありません。そんなところから、「自分のコントロールできない部分は仕方ない。ならば、どうすればハッピーでいられるか」と考えるようになりました。

今は、ハワイで生活できることを、ただ感謝しています。最近では、子どもを乗せてパドルに行くことにはまっているんですよ。近い将来子どもがもう少し大きくなったら、親子で一緒にサーフィンを楽しみたいですね。